

新年のごあいさつ

二〇年の歩みを 礎として



八頭町長 吉田 英人

新年明けまして、
おめでとうございます。

町民の皆様方には、ご健勝で輝かしい令和八年の新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃より町政全般に対しまして、格別なるご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

八頭町は昨年、合併二〇周年を迎えました。十一月二日には、議員各位をはじめ、平井伸治鳥取県知事、石破茂前内閣総理大臣、福田俊史県議会議長など多くの来賓の方々ご臨席のもと、合併記念式典を挙行了し、二〇年の歩みを振り返るとともに、新たなまちづくりのスタートとさせていただきます。

振り返ってみますと、平成十七年三月三十一日、地域的にも歴史的にもつながりの深い旧郡家町、船岡町、八東町が合併し、新たな町「八頭町」が誕生いたしました。この合併は、町民自らの意志に基づく大きな決断のもとに実現したものであります。この大きな決断の方向付けにあたっては、旧町の町長、議会議員の皆様、合併協議会に関わっていただいた各界各位の皆様方が心を一つに、「町の将来はいかにあるべきか」を、心を砕いて真剣に協議いただいたからこそ成し得たものと思っております。改めまして、関係各位のご尽力に深く感謝と敬意を表するものです。

合併以来、人口減少や少子高齢化、産業構造の変化など、私たちを取り巻く環境は大きく変化してまいりました。とりわけデジタル化の進展は、私たちの生活様式、働き方、経済活動に大きな変化をもたらしております。オンラインでの買い物やサービスの利用、キャッシュレス決済、テレワークの普及による働き方の多様化、情報発信の容易化など多くの便利な変化がありました。本町では、令和七年度からスタートした「第三期八頭町総合戦略」の中にデジタル技術の活用を盛り込み、買い物支援サービスの提供、スマート農業の推進、デジタルポイント、情報発信におけるSNS等の積極的な活用や町公式LINEの開設等、各分野における施策を一体的に推進することといたしております。





また、基幹産業である農業は、水稻を中心にしながら、梨・柿・リンゴなどの果樹の栽培に力を入れ、これらの素晴らしき八頭の果樹を次の世代に発展継承していくような、経営モデル団地の整備、八頭町トレーニングファームの開講など、後継者の育成を支援しております。また、昨年十月には、「八頭町オーガニックビレッジ宣言」を行い、土を育て、生物の多様性を守り、環境に優しい有機農業を本格的に推進するよういたしました。

そして、八頭町の最大の課題は、人口減少問題です。人口減少は、本町に限らず国全体としての大きな課題です。人口が減少しても住民生活に悪影響を及ぼさずに社会機能を縮小し、住民福祉を向上させなければなりません。今後、誰もが安心して暮らせる持続可能な地域社会を目指す「スマートシユリンク（賢く縮む）」がこれからの大きな流れになる中で、少子高齢化を背景に加速化する



人口減少への私たちの向き合い方が、今、問われています。人口減少に対する対策に「即効薬」はないと言われているますが、人口減少を正面から受け止め、自然減対策、社会減対策に総合的に取り組む必要があります。特に「自然減」の対策については、個々の自治体の努力だけでは限界があることから、国・県の少子化対策を最大限に活用し、社会全体で少子化の流れを変えろという挑戦を続けることが、将来世代のために私たちが果たすべき使命であると考えております。そして、未来への投資である子育て支援策などの少子化対策を積極的に行うとともに、引き続き医療・福祉・商業等の生活サービス機能と居住の誘導による「若者や女性にも選ばれる地域づくり」が重要となつてまいります。

私たちのまち「八頭町」には、豊かな自然、温かい人と人との絆と地域のつながりがあります。どのような時代にあつても、地域に生きる人々が誇りを持ち、互いに支え合いながら笑顔で暮らせる町―それが八頭町の目指す姿であります。

この二十年の歩みを礎として、新たなまちづくり「八頭町版地方創生二〇」を加速させる年として、八頭町は更なる挑戦を続けてまいりますので、町民皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

年頭にあたり、新しい年が町民の皆様にとりまして、健康で幸多き飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。